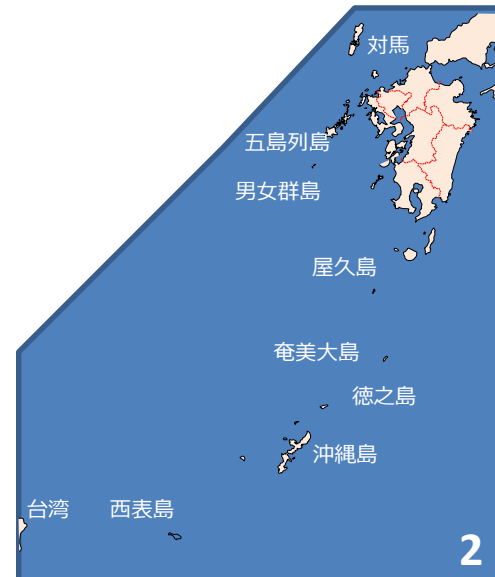
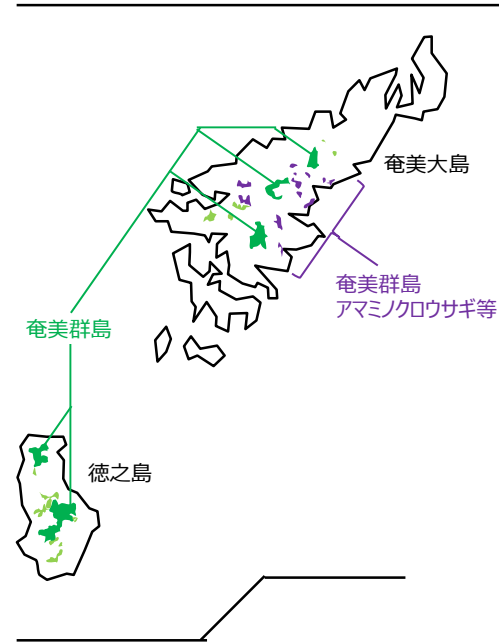
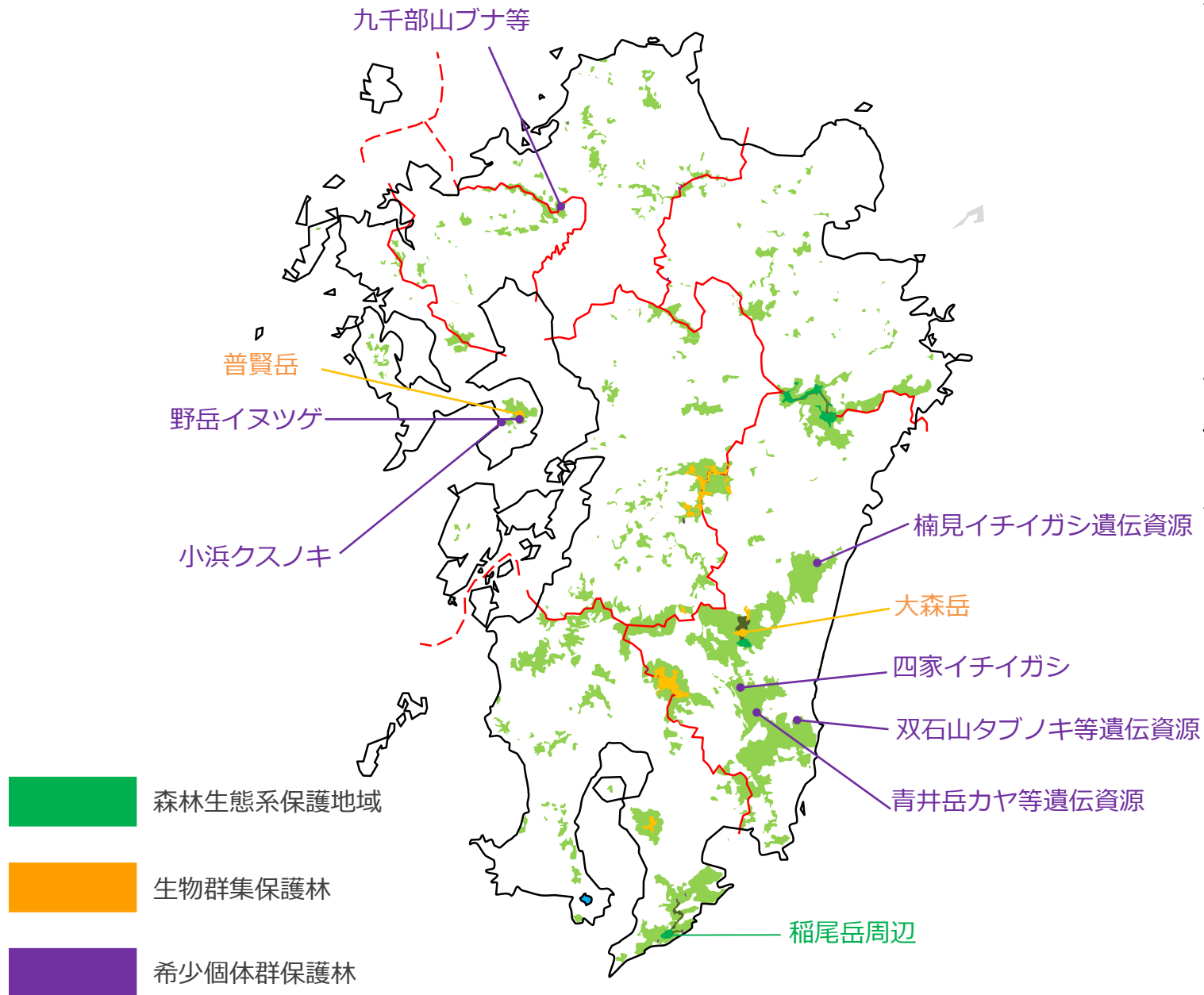


令和3年度 保護林モニタリング調査結果(概要)

令和4年 2月 14日

1. 調査実施箇所



2. 調査実施保護林

No.	対象保護林名	区分	既存プロット数	所在県	森林管理署	頁番号
①	あまみぐんとう 奄美群島	森林生態系保護地域	15	鹿児島	鹿児島	11
②	いなおだけ 稲尾岳周辺		10	鹿児島	大隅	41
③	ふげんだけ 普賢岳	生物群集保護林	4	長崎	長崎	57
④	おおもりだけ 大森岳		6	宮崎	宮崎	65
⑤	くせんぶやま 九千部山ブナ等	希少個体群保護林	3	佐賀	佐賀	76
⑥	おばま 小浜クスノキ		2	長崎	長崎	83
⑦	のだけ 野岳イヌツゲ		2	長崎	長崎	89
⑧	ぼろいしやま 双石山タブノキ等遺伝資源		4	宮崎	宮崎	95
⑨	くすみ 楠見イチイガシ遺伝資源		2	宮崎	宮崎	102
⑩	あおいだけ 青井岳カヤ等遺伝資源		2	宮崎	都城	108
⑪	し か 四家イチイガシ		2	宮崎	都城	114
⑫	あまみぐんとう 奄美群島アマミノクロウサギ等		9	鹿児島	鹿児島	120

3. 調査項目

保護林名	区分	森林タイプ の分布	樹種 分布	樹木の 生育			下層植生の生育			野生動物の 生育・生息			災害発生 状況		病虫害・鳥獣害			利活用	管理 体制	保護対象種 の生育 ・生息		その他		
		A	B	C	D	E	F	D	G	H	I-1	I-2	I-3	J	K	L	D	M	N	O	P	Q	UAV	概況 調査
		資料調査	リモート	資料調査	森林概況	森林詳細	資料調査	森林概況	森林詳細	資料調査	哺乳類	鳥類	その他	資料調査	リモート	資料調査	森林概況	森林詳細	資料調査	聞き取り	資料調査	森林詳細		
あまみぐんとう 奄美群島	森林生態系 保護地域	●		●		●	●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●			●	
いなおだけ 稲尾岳周辺		●		●		●	●		●	●	●	●	●			●	●	●	●	●			●	
ふげんだけ 普賢岳	生物群集 保護林			●		●	●		●					●		●	●			●				
おおもりだけ 大森岳				●		●	●		●	●	●					●	●	●		●			●	
くせんぶやま 九千部山ブナ等	希少個体 群保護林			●		●	●		●							●	●			●	●	●	●	●
おばま 小浜クスノキ				●		●	●		●							●	●			●	●	●	●	
のだけ 野岳イヌツゲ				●		●	●		●					●		●	●			●	●	●	●	●
ぼろいしやま 双石山タブノキ等遺伝資源				●		●	●		●							●	●			●	●	●	●	
くすみ 楠見イチイガシ遺伝資源				●		●	●		●							●	●			●	●	●	●	
あおいだけ 青井岳カヤ等遺伝資源				●		●	●		●							●	●			●	●	●	●	
しか 四家イチイガシ				●		●	●		●							●	●			●	●	●	●	
あまみぐんとう 奄美群島アマミノクロウ サギ等				●		●	●		●							●				●	●	●	●	

4. 現地調査（森林詳細調査）の概要

樹木の生育状況調査

- ・プロット内の樹木の樹種同定、胸高直径・樹高の計測
- ・全天球写真を利用した樹木の生育状況の定点観察



樹種同定状況



胸高直径測定・記録状況

下層植生の生育状況調査

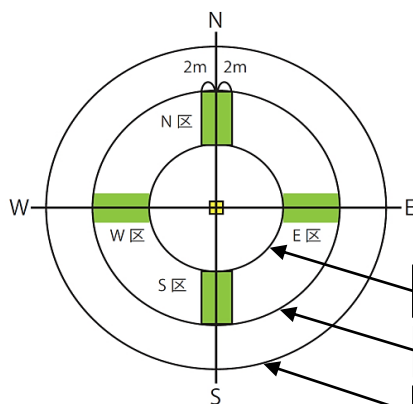
- ・植生調査区※内に出現する全種の記録
- ・全天球写真を利用した、下層植生の生育状況の定点観察

※植生調査区は東西南北の4方向のラインに沿って中円の内周と外周の間に設けた幅4mの長方形のサブプロットで4区のうち2区で調査を実施。原則、N区とS区、E区とW区の組み合わせ。



下層植生の生育状況の記録状況

H30以降の調査区域



樹木の生育状況調査

- ・小円部: 胸高直径1cm以上の立木
- ・中円部: 胸高直径5cm以上の立木
- ・大円部: 胸高直径18cm以上の立木

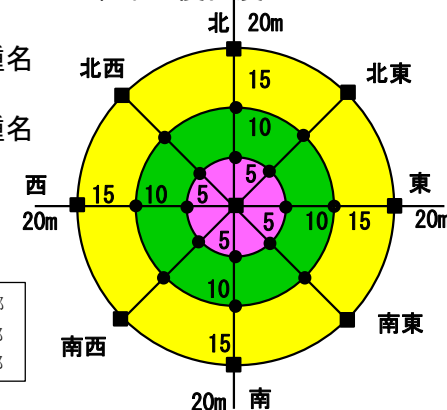
下層植生の生育状況調査

- ・出現した植物種 0.0045ha

小円部	5.64m (0.01ha)
中円部	11.28m (0.03ha)
大円部	17.84m (0.06ha)

H29以前の調査区域

- ・小円部: 階層別の植被率及び出現するすべての種名と優占度
- ・中円部: 中円部で初めて出現する種の種名
- ・大円部: 大円部で初めて出現する種の種名



4. 現地調査（病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査）の概要

プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を定量的に把握する。
ニホンジカ（以下、「シカ」という。）被害レベルについては、チェックシートを用いて判定する。

シカ被害レベルと森林植生の状況

被害レベル区分	被害レベル段階内容	森林植生の状況	特徴的な指標			
			林冠の状況	林内の状況	忌避植物の割合	備考
被害レベル0	シカによる被害がほとんどない段階	森林の階層構造、種組成ともに自然状態。	林冠閉鎖	低木層、草本層にほとんど食痕が見られない。	小	
被害レベル1	シカによる被害が軽微で、森林の構造にほとんど変化はない段階	森林の階層構造、種組成ともに自然状態であるが、構成種に食痕が頻繁に認められる。	林冠閉鎖	低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成への影響は少ない。	小	一見被害がなさそうに見えるが、調査を行うと、被害の痕跡が見られる。
被害レベル2	シカによる被害により森林の内部構造に変化が生じている段階	森林の階層構造（特に低木層・草本層）に欠落が生じ始める。また、種組成に忌避植物が侵入・優占し始め、自然状態の種組成に変化が生じ始めている。	林冠閉鎖	低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成に変化が生じる。	小	低木層、草本層の種数の減少や、特定の種（忌避植物ほか）の優占等が見られる。
被害レベル3	シカによる被害により森林の内部構造が破壊された段階	森林の階層構造（特に低木層・草本層）に欠落が生じ始める。また、低木層、草本層に忌避植物が優占し、自然状態の種組成とは異なった林分となる。	林冠閉鎖	低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成に欠落が生じる。	小	林床にスズタケの優占する森林では、枯死桿の存在で比較的簡単にわかる。
被害レベル4	シカによる被害により森林が破壊された段階	森林の低木層・草本層に加え、亜高木層・高木層当の林冠構成種の一部が枯死し、森林としての階層構造に欠落が生じる。また、低木層、草本層に忌避植物が優占し、自然状態の種組成とは異なった林分となる。	林冠に（シカによる）ギャップが生じる	低木層、草本層に食痕が見られる。階層構造、種組成に欠落が生じる。	大	高木層の枯死及び消失が散見される。また、被害の酷いところでは、土柱等の表土の流亡の兆候が見られる。

シカ被害レベル判定のための簡易版チェックシート (Ver.3改訂版-2)

調査日: _____ 調査者名: _____

調査地点名: _____ 標高: _____ m 緯度・経度: _____

林種: 人工林 自然植生(天然林) 代償植生(二次林) 低木群落

植生タイプ: 常緑広葉樹林 落葉広葉樹林 針葉樹林 針葉混交林

地形: 尾根上 斜面 谷

微地形: 平地 傾斜地 凹地 凸地

シカの生息情報の有無: あり なし 不明

★被害レベル調査範囲
調査区内(20m×20m程度の範囲)におけるシカ被害状況を確認する
なお、シカが生息しているまたはその可能性がある場合に以下のチェックシートを用いる

(人工林: スギ・ヒノキ・アカマツ等の針葉樹やその他広葉樹の植林地)
(天然林: 人の手によって一度も伐採されたことがない林)
(二次林: 天然林が伐採された後または焼失した後に自然に再生した林)
(低木群落: アカメガシワやカラスザンショウ等、3m以下の先駆性木本種の生育初期段階の林)

Start (YES/NOと被害レベルに○をつける)

(※1) 調査区内に高木の倒伏や立ち枯れが3本以上ある、または表土流亡がある → YES → 被害レベル4 ※被害レベル3の要件を満たしていること

(※2) 地上高1.5m以下の林内の見通しがよい(20m先までよく見える) → NO → 被害レベルが3以上あることを確認する

(※3) 低木層(地上高0.5~1.5mの範囲)は、特定の種ばかりが生育または優占し、種構成に偏りがある → YES → アオキ、イヌビロウ、ササ類が生育し、これらの占める割合が他の種より多い ※ササ類は枯死種しか見当たらない場合はNOへ → 被害レベル3

近年(3年以内に)、間伐や下草刈りなどの森林施業が行われた林である → YES → 被害レベル2

新しい(1年以内)シカの痕跡(角こすり跡・食痕・糞)が目立つ → YES → 被害レベル2

植生は豊かに繁茂しているが、シカの被害が僅かながら認められる → YES → 被害レベル1

シカ被害はなく、植生は豊かに繁茂している → YES → 被害レベル0

※1 高木は樹冠を形成する樹木。シカにより林床の植物が減少すると、乾燥に弱いブナなどの樹木が立ち枯れたり倒伏したり、表土流亡が発生しやすくなる。
※2 シカの口がとどく範囲である高さ1.5m程度までの植物がシカから食べられるので、林内の見通しが良くなる。
※3 シカの食害が多くなると、シカの嫌いな植物(忌避・不嗜好性植物)だけが生き残るため多様性が失われる。種構成に偏りが生じる。

シカ影響調査・簡易被害チェックシート (改訂版ver4)

4. 現地調査（野生動物の生息状況調査）の概要

- 動物調査（哺乳類）**：自動撮影カメラ等を利用し、同一時期の一定期間内における野生動物の生息状況を記録する。撮影箇所数については前回調査を参考に保護林全体での生息状況が分かる箇所数とし、一箇所あたりの設置台数は3台以上とする。
- 動物調査（鳥類）**：スポットセンサス法により鳥類の生息状況を把握する。原則として繁殖期及び越冬期の2期実施する。また、追加調査として、「奄美群島森林生態系保護地域」及び「奄美群島アマミノクロウサギ等希少個体群保護林」において夜行性の動物種の生息状況を把握するため、タイマー機能付き録音機を用いて調査を行い、録音した音声を解析する。
- 動物調査（その他）**：ライトランセクト法（任意に設定した調査ルート上で直接観察された種を記録）による昆虫類調査を実施する。なお、必要に応じてスウィーピング及びビーティングを実施し、生息種を同定する。



自動撮影カメラ設置状況



鳥類調査状況



昆虫類調査状況
(スウィーピング)

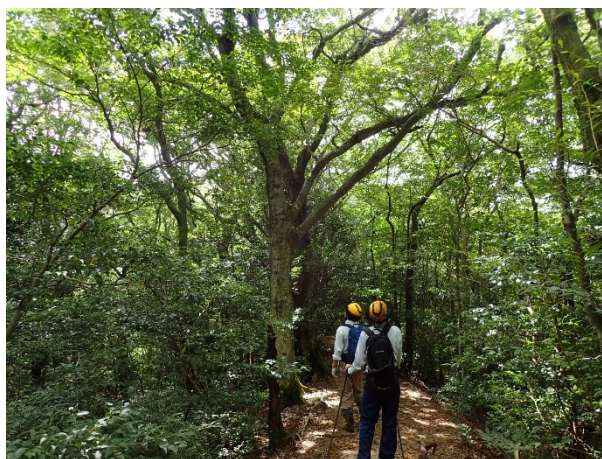
4. 現地調査（概況把握）の概要

全プロットが森林生態系多様性基礎調査により調査されている保護林については、現地で概況把握※を行う。

※概況把握：保護対象種を含む植生全体の生育状況（衰退・消失状況、高木種の更新状況）、生育植生の種組成（シカの不嗜好・嗜好種、希少種等の生育状況）の把握。

●対象保護林

- ・九千部山ブナ等希少個体群保護林
- ・野岳イヌツゲ希少個体群保護林



概況把握調査状況



概況把握調査状況

【その他】

シカの侵入の先端地域（フロントライン）とされる「九千部山ブナ等希少個体群保護林」、シカの未侵入地域とされる「普賢岳生物群集保護林」、「野岳イヌツゲ希少個体群保護林」、「小浜クスノキ希少個体群保護林」の4保護林において、利用頻度の高いけもの道沿いに自動撮影カメラを設置し、シカの侵入状況を把握する。撮影された写真判定により侵入状況を把握するとともに、侵入が認められた場合は雄個体だけか、雌個体も侵入しているのか分析し、今後の対策や将来見通しにかかる提言を行う。

4. 無人航空機（UAV）による保護林の概況把握

調査対象保護林において、無人航空機（UAV）を活用して概況把握に必要な画像を撮影し、把握した概況について取りまとめを行い、樹木、植生等の概況内容を報告する。撮影に当たっては、以下の点に留意する。

- ① 調査プロット周辺だけでなく、保護林の概況把握ができる画像を撮影する。
- ② 撮影した画像から考察される内容を概況把握に含める。
- ③ 撮影地点（飛行開始箇所、飛行方向及び撮影箇所）を記録する。



Phantom 3 Professional



UAV調査状況

5. 解析

樹木及び保護対象樹種の生育状況調査（森林詳細調査）

プロット内に生育する立木（生木）の本数と材積（胸高断面積合計値）を算出し、過年度と比較する。

※過年度の調査対象木は小円及び中円では胸高直径が5cm以上としていたが、マニュアル改訂に伴い平成30年度から小円部では胸高直径1cm以上の木を対象となった。そのため、マニュアル改訂以前と以降とのデータをそのまま比較すると適切な解析ができないことから、5cm以下のデータは除いた。なお、(旧)林木遺伝資源保存林では過年度も1cm以上を調査対象としていたため、除外せず比較解析を行った。

下層植生の生育状況調査（森林詳細調査）

植生調査区内の植被率、優占種及び出現した植物種を記録することで、下層植生の現状を把握する。調査結果及び全天球写真を利用し、既存データと下層植生の生育状況を比較解析する。

病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査（森林概況調査）

「シカ被害レベル判定のための簡易版チェックシート（ver.3 改訂版 2）」を用いて、植生被害を6ページに示した被害レベル0～4までの5段階に区分する。

病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査（森林詳細調査）

プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を定量的に調査し、既存データと被害本数や内容を比較解析する。

野生動物の生息状況調査、保護対象動物種の生息状況調査（動物調査：哺乳類）

赤外線感知型センサー付きの自動撮影カメラで撮影された写真を分析し、既存データと比較解析する。

野生動物の生息状況調査、保護対象動物種の生息状況調査（動物調査：鳥類）

目撃または鳴き声の確認結果を整理し、対象保護林に生息する鳥類相を分析し、既存データと比較解析する。

野生動物の生息状況調査、保護対象動物種の生息状況調査（動物調査：昆虫類）

昆虫類を対象に、直接観察により確認された種を整理する。これにより昆虫相の種構成や個体数等を把握し、既存データと比較解析する。

①奄美群島森林生態系保護地域

亜熱帯海洋性気候に含まれる奄美群島は、年平均降水量が2,000mm~3,000mmと非常に多く、森林が群島総面積の66%を占めるため、水源涵養機能や山地災害防止機能が大きな役割を果たしてきた。このうち、国有林は奄美大島の総面積の6%、徳之島の総面積の15%を占め、スダジイ（イタジイ）、イジュ、イスノキ、オキナワウラジロガシ等から構成される亜熱帯常緑広葉樹林（照葉樹林）で覆われる。植物群落全体の種の組み合わせが原生林に極めて近く、学術的にも非常に価値の高い森林を擁していることから、この地域を適切に維持・保存するため、奄美群島森林生態系保護地域設定委員会の審議を経て、奄美大島にある金作原、神屋、谷津野の3団地と徳之島にある徳之島北部、徳之島中部地区の2団地計5団地が「奄美群島森林生態系保護地域」に設定された(平成25（2013）年3月)。

奄美群島が属する琉球諸島は、平成15（2013）年の「世界自然遺産候補地に関する検討会」にて、大陸との関係において独特の地史を有し極めて多様で固有性の高い亜熱帯森林生態系や珊瑚礁生態系を有している点、また優れた陸上・海中景観や多くの絶滅危惧種の生息地となっている点が評価され、世界遺産条約に定める登録基準と完全性の条件を満たす可能性が高い地域の一つとされた。これらを背景に、平成25（2013）年1月には世界遺産条約関係省庁連絡会議において「奄美・琉球」を自然遺産として我が国の世界遺産暫定一覧表に記載された。また、同年5月には世界自然遺産暫定一覧表への記載を目指して、「奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会」が設置され、同年12月開催の第3回委員会に、中琉球の奄美大島、徳之島、沖縄島北部の3地域と南琉球の西表島の計4地域を「連続性のある資産」として世界自然遺産推薦候補区域に選定し、世界遺産登録を目指して関係機関による様々な取り組みが進められてきた。その結果、令和2年7月、「奄美大島、徳之島、沖縄島北部、西表島」が、日本で5番目となる世界自然遺産に登録された。

本保護林については、人為活動等により自然環境の劣化等の懸念もあることから、科学的根拠に基づく関係者合意の下で保全と利用の調整を図る管理が求められる。このような状況を踏まえ、九州森林管理局においては、一連の保全等に係る取組を計画的に進めるため、有識者意見も取り入れた保護林の総合的管理指針「奄美群島森林生態系保護地域保全管理計画」が策定されている。

また、自然遺産登録後の適正な管理と実践の具体的取組を進めるため、関係省庁（環境省、林野庁、文化庁）、地域自治体の鹿児島県、沖縄県ほか関係市町村（2県12市町村）は、遺産地域全体の管理体制を確立し、貴重な自然環境を人類共通の資産と位置づけ、よりよい形で後世に引き継ぐための管理方針「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産推薦地包括的管理計画」が策定されている。

これらのことから、奄美群島森林生態系保護地域（奄美大島、徳之島）は、世界自然遺産登録後の姿がどうあるべきかを想定し、本保護地域の保全管理計画の取組と上記の遺産地域における包括的管理計画の地域別行動計画に関係する機関・団体等が連携、協力した具体的施策・検討との整合性も保ちながら進めていく必要がある。

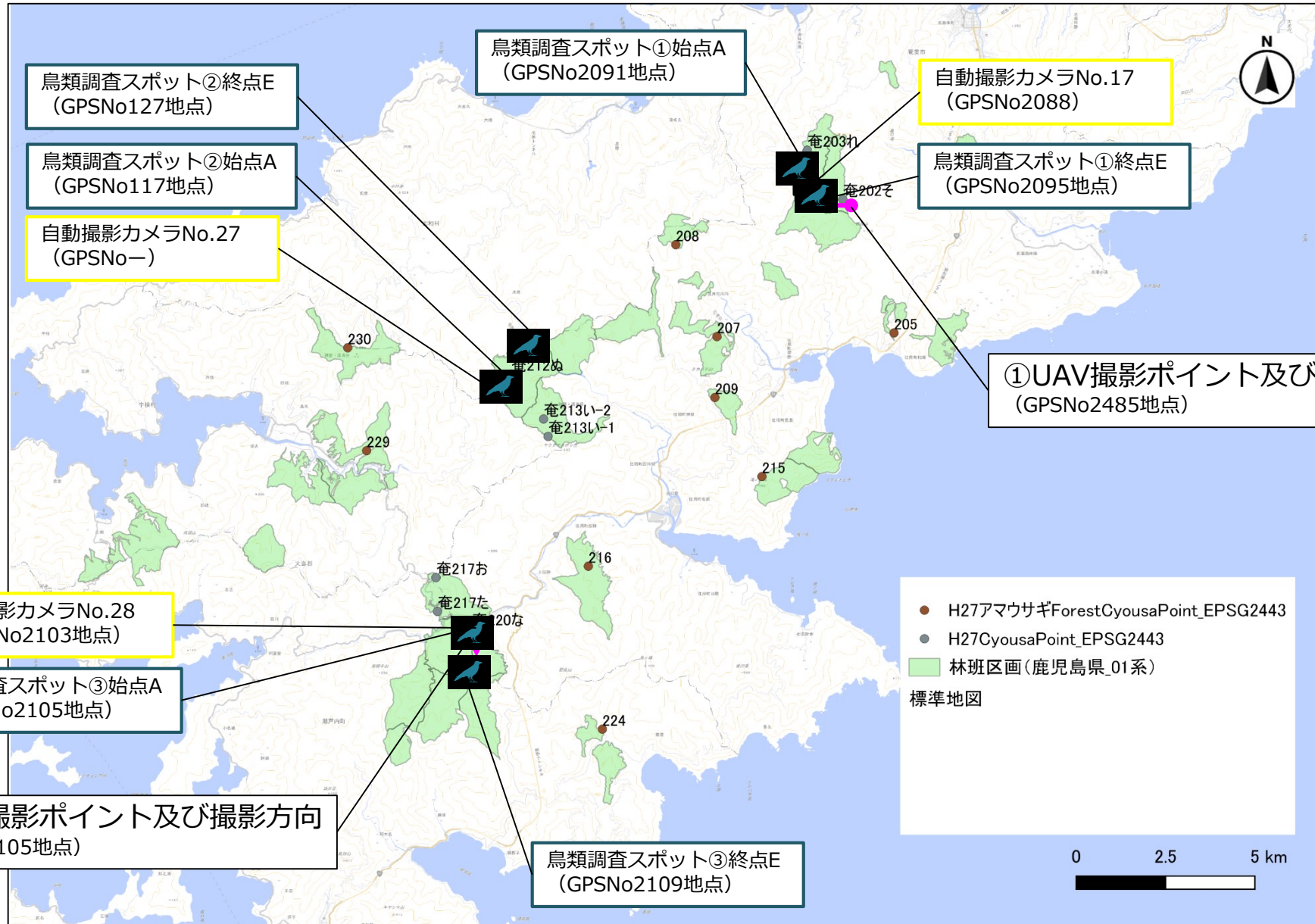
なお、奄美大島の保護林には森林生態系保護地域のほかに、林相が類似する「アマミノクロウサギ希少個体群保護林」が別途指定されているが、これらは類似した林相でもあるため、今後、保護林として統合を検討する予定である。

保護林の概要
(位置、標高、
地質、傾斜、林
相の概要等)

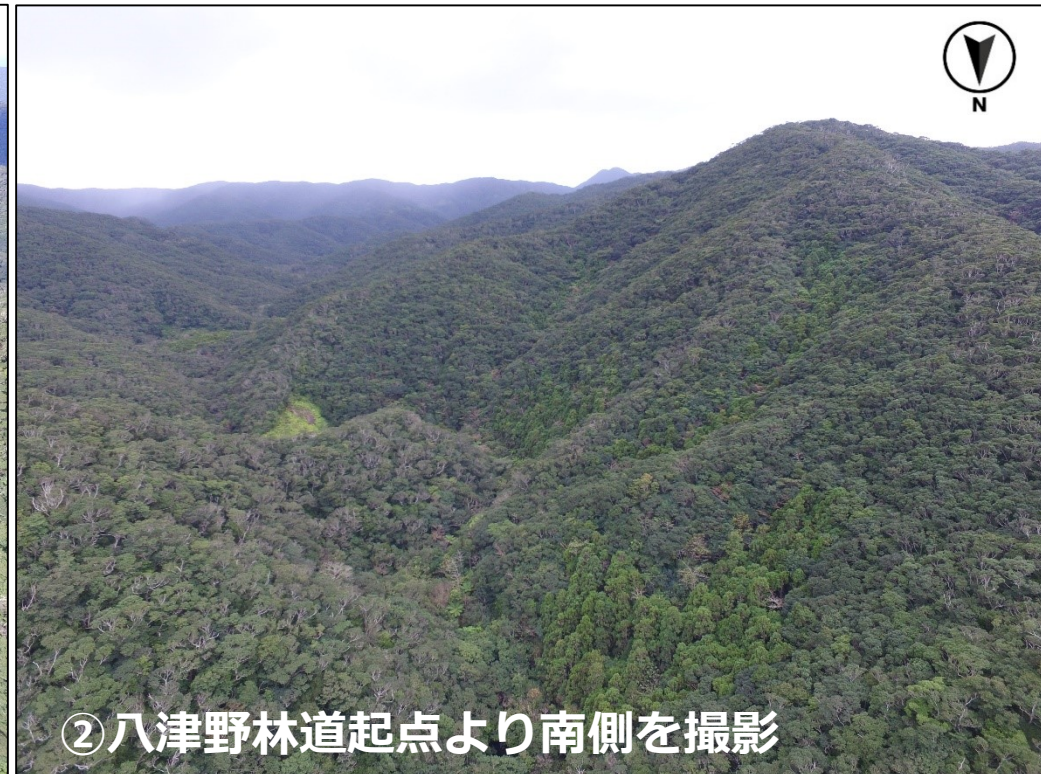
①奄美群島森林生態系保護地域

所在地/管轄	鹿児島県/ 鹿児島森林管理署
面積 (ha)	4,819.71 (うち、保存地区 2,252.44 ha、保全利用地区 2,567.27 ha)
保護・管理の対象個体群 (森林生態系)	奄美群島でしか見られない特徴を持つ原生的な天然林(亜熱帯性常緑広葉樹林)及びアマミノクロウサギやルリカケスなどの大陸遺存種やアマミトゲネズミなどの固有種
調査プロット (前回調査年度)	既存調査プロット15箇所 (前回調査:平成27年度)
調査時期	令和3年6月～令和4年1月(哺乳類調査 6月～11月 繁殖期鳥類調査 6月～7月※ICレコーダーによる夜行性鳥類等調査兼 越冬期鳥類調査 令和4年1月 昆虫類調査 7月 森林詳細調査及び森林概況調査 11月～12月 その他UAV 12月)
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ A: 森林タイプの分布等状況調査(資料調査) ・ CE: 樹木の生育状況調査(資料調査・森林詳細調査) ・ D: 病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査(森林概況調査) ・ FG: 下層植生の生育状況調査(資料調査・森林詳細調査) ・ HI: 野生動物の生息状況調査(資料調査・動物調査(哺乳類・鳥類・昆虫類)) ・ LM: 病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査(資料調査・森林詳細調査) ・ N: 論文等の発表状況調査(資料調査) ・ O: 外来種駆除等実施状況調査(聞き取り調査) ・ その他: UAV、保全エリアの選定※エリア内シカ柵設置箇所検討

保護林及びプロット位置図 (奄美大島)

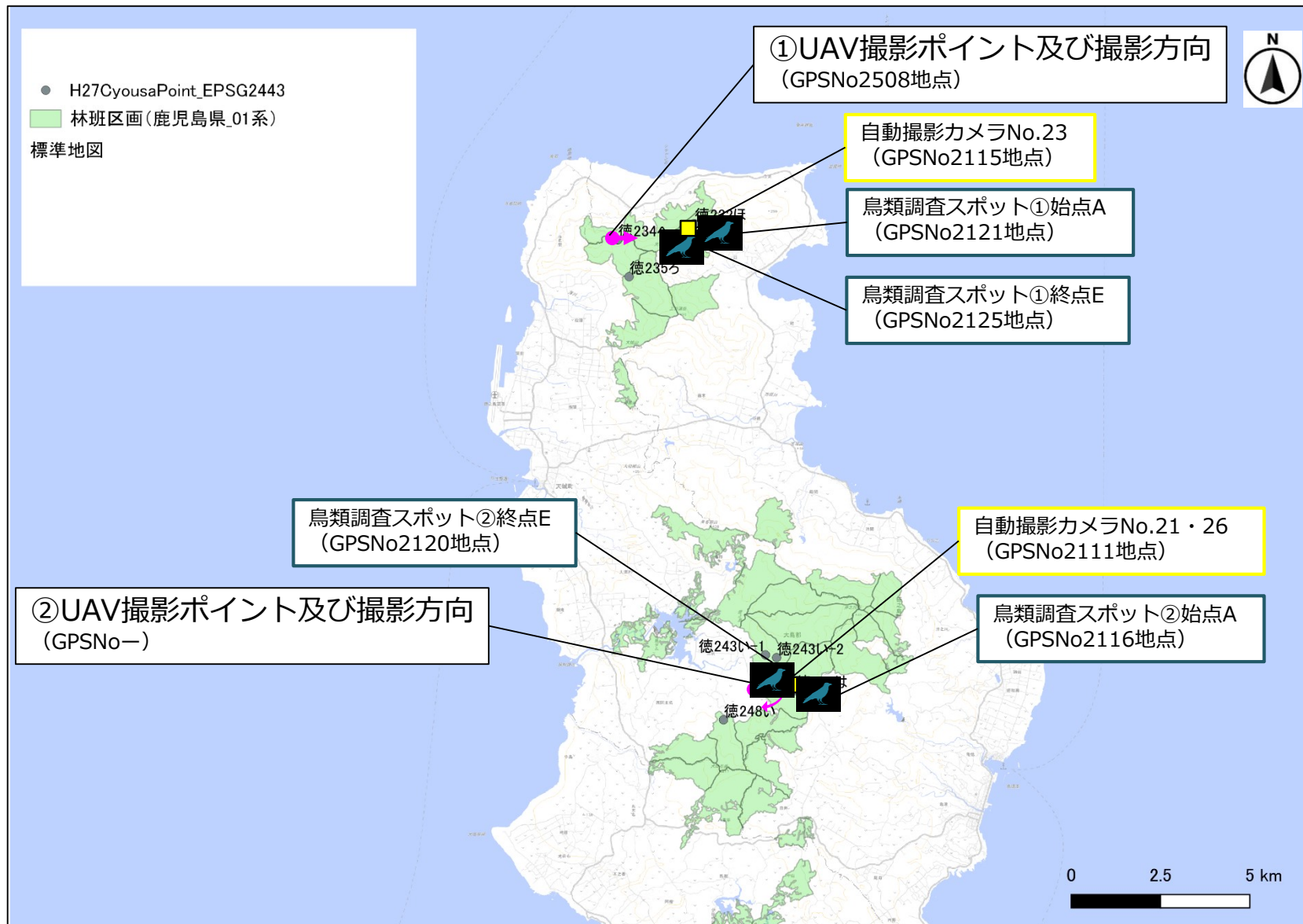


保護林概況写真（奄美大島）



いずれも無人航空機(UAV)にて撮影

保護林及びプロット位置図（徳之島）



保護林概況写真（徳之島）



いずれも無人航空機(UAV)にて撮影



林相の健全性の評価

地域	プロットNo.	※シカ被害レベル			高木層	低木層	草本層	表土	備考
		平成22年度	平成27年度	令和3年度					
奄美大島 8プロット	202そ	—	—	—	△ (気象害)	○	○	○	老齢木の倒伏により植 被率低下
	203れ	—	—	—	○	○	○	○	一部ギャップあり
	212ぬ	—	—	—	○	○	○	○	
	213い②	—	—	—	○	○	○	○	
	213い①	—	—	—	○	○	○	○	
	217お	—	—	—	○	○	○	○	
	217た	—	—	—	○	○	○	○	
	220な	—	—	—	○	○	○	○	
徳之島 7プロット	232ほ	—	—	—	△ (病虫害)	○	○	○	マツノザイセンチュウ 被害、スダジイ枯損
	234へ	—	—	—	△ (気象害)	○	○	○	風倒木多い
	235ろ	—	—	—	△ (病虫害)	○	○	○	カシノナガキクイムシ 被害
	243い②	—	—	—	○	○	○	○	※ルート上で風害
	243い①	—	—	—	○	○	○	○	※ルート上で風害
	246は	—	—	—	○	○	○	○	
	248い	—	—	—	○	○	○	○	

※奄美大島及び徳之島には、シカは生息しておらず、現時点での侵入も認められない。

高木層 : ○は健全(枯損・倒伏0~3本以下)、△は病虫害・気象害あり、×は倒伏・枯損が3本以上(ただし老齢など自然によるものは除く)

低木層 : ○は健全、△は衰退、×は欠落(2m以下の立木がほとんどなく林内の見通しがよい)または、忌避植物が優占(自然状態の種組成とは異なった林分)

草本層 : ○は健全、△は衰退、×は被度が高くてシカの忌避植物が覆う、××は貧弱

表土 : ○は安定、×は流亡

※「健全」とは、森林の階層構造、種組成ともに自然状態である林分とする。

結果総括①奄美大島において

調査結果概要

【プロット】 【植物】 ※森林概況調査及び森林詳細調査より

- ・ **高木層**において、プロット202そ、203れ、213い②、217お、217た、220なの6プロットで枯損木が3本以上確認されたが、これらは樹種不明、クロバイ、スダジイ、ヒメユズリハ、イジュなどの大径木であることから老齢による自然の枯損と判断された。
- ・ **保護対象種**は原生的な天然林（亜熱帯性常緑広葉樹林）であり、林冠層にスダジイ、イジュ、エゴノキ、オキナフウラジロガシ等の生育が確認され、林内には、スダジイ、イスノキ等の中小径木も多く見られた。全プロットでスダジイの大径木を含め、オキナフウラジロガシも確認された。
- ・ **保護対象樹種の後継個体(稚樹や実生)として**、タブノキ、イスノキ、スダジイ、ウラジロガシ、バリバリノキ、イジュ、フカノキ、ホルトノキが確認された。
- ・ **低木層**はタイミンタチバナ、イスノキ、スダジイ、ミヤマハシカンボク、サクラツツジなどが優占し、過年度と種構成に大幅な変化はなかった。
- ・ **草本層**はヨゴレイタチシダ、キノボリシダ、ヒリュウシダなどのシダ植物が繁茂しており、その中にスダジイやシシアクチ、ウラジロガシなどの木本種がみられ、種数も多く、種構成に偏りはみられなかった。
- ・ 低木層及び草本層ともに植被率が高く見通しの悪い林内となっており、植生は豊かに繁茂していた。
- ・ 病虫害は確認されなかったが、スダジイを中心に枯損が確認されており、カシノナガキクイムシによる被害が否か現時点で判断できなかった。
- ・ プロット内でリュウキュウマツの確認そのものがなかったため、マツノザイセンチュウ病による枯損木は確認されなかった。アクセスルート上にて樹種不明の状態にまで腐朽した倒伏木が確認された。ただし、道路のり面や林縁、裸地などの開けた箇所等でリュウキュウマツの幼齢木の発生、若齢林の更新が確認された。

【哺乳類】

- ・ シカの生息は確認されなかった。
- ・ 自動撮影カメラによる**哺乳類の確認種は、国の特別天然記念物であり、種の保存法に基づく国内希少野生動物種であるアマミノクロウサギの他、リュウキュウイノシシ、ノヤギの3種が大半を占め**、依然としてノヤギの生息個体数が多いことが判明した。
- ・ その他の確認種としてネズミ科とネコが確認された。
- ・ 痕跡調査の結果、アマミノクロウサギの糞や巣穴が確認された。
- ・ ICレコーダーを用いた音声録音調査においても、アマミノクロウサギの鳴き声が確認された。

【鳥類】

- ・ **鳥類の希少種(種の保存法に基づく国内希少野生動物種)として、アマミヤマシギ、アカヒゲ、オーストンオオアカゲラ**が確認された。なお、アカヒゲとオーストンオオアカゲラは国の天然記念物にも指定されている。
- ・ また、同じく国の天然記念物に指定されている留鳥のカラスバト、ルリカケス、オオトラツグミの他、夏鳥の希少種であるリュウキュウキビタキが確認された。

【昆虫類】

- ・ 希少種としてヒメマルゴキブリ、アマミコケヒシバツタの2種が確認された。

※概況把握：保護対象種を含む植生全体の生育状況（衰退・消失状況、高木種の更新状況）、生育植生の種組成（シカ忌避・嗜好種、希少種等の生育状況）の把握。

結果総括①徳之島において

調査結果概要

【プロット】 【植物】 ※森林概況調査及び森林詳細調査より

- ・ **高木層**において、プロット232ほ、234へ、235ろ、243い②の4プロットで枯損木が3本以上確認された。これらはスダジイが中心で、一部にカシノナガキクイムシ被害が確認されたことから、被害がスダジイに集中していることが懸念される。
- ・ また、リュウキュウマツの枯損も確認され、マツノザイセンチュウ被害の痕跡が認められた。
- ・ 樹種不明の枯損や、オキナフウラジロガシの枯損も認められたが、これらは老齢による自然の枯損と判断された。
- ・ **保護対象種**は原生的な天然林（亜熱帯性常緑広葉樹林）であり、林冠層にスダジイ、イジュ、エゴノキ、オキナフウラジロガシ等の生育が確認され、林内には、スダジイ、イスノキ等の中小径木も多く見られた。全プロットでスダジイの大径木を含め、オキナフウラジロガシも確認され、一部のプロットでは、環境省RLで絶滅危惧IAに指定されているアカハダコバンノキも確認された。風倒木の目立つプロットが一部見られたほか、外来種のシーカーサーが確認された。
- ・ **保護対象樹種の後継個体(稚樹や実生)として**、スダジイ、タブノキ、オキナフウラジロガシ、ホルトノキ、ショウベンノキ、フカノキ、ウラジロエノキ、バリバリノキ、バクチノキが確認された。
- ・ 一部でカシノナガキクイムシ被害がスダジイとオキナフウラジロガシに、またマツ枯れがリュウキュウマツに確認され、マツ枯れ被害は顕著であった。
- ・ **低木層はシマミサオノキ、ポチョウジ、イスノキ、タイミンタチバナ**などが優占し、過年度と種構成に大幅な変化はなかった。
- ・ **草本層**はヨゴレイタチシダ、キノボリシダ、コウモリシダなどシダ植物が繁茂しており、その中にスダジイやシマミサオノキ、トクノシマエビネなどがみられ、種数も多く、種構成に偏りはみられなかった。
- ・ 低木層及び草本層ともに植生率が高く見通しの悪い林内となっており、植生は豊かに繁茂していた。

【哺乳類】

- ・ シカの生息は確認されなかった。
- ・ 自動撮影カメラによる哺乳類の確認種は、国の特別天然記念物であり、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種であるアマミノクロウサギの他、リュウキュウイノシシ、ノイヌの3種が確認された。リュウキュウイノシシとアマミノクロウサギの2種で撮影の大半を占めた。
- ・ 痕跡調査の結果、アマミノクロウサギの糞や巣穴の他、リュウキュウイノシシの足跡も確認された。

【鳥類】

- ・ **鳥類の希少種（種の保存法に基づく国内希少野生動植物種）として**、**アマミヤマシギとアカヒゲ**が確認された。なお、アカヒゲは国の天然記念物にも指定されている。アマミヤマシギは、自動撮影カメラ調査のみで確認された。
- ・ また、夏鳥の希少種であるリュウキュウキビタキが確認され、徳之島では旅鳥・冬鳥として渡来する希少種のサシバも確認された。

【昆虫類】

- ・ 希少種は確認されなかった。

※概況把握：保護対象種を含む植生全体の生育状況（衰退・消失状況、高木種の更新状況）、生育植生の種組成（シカ忌避・嗜好種、希少種等の生育状況）の把握。

結果総括①

【全体】※調査プロット周辺とアクセスルート途上における保護対象種等の概況把握結果含む

奄美群島の森林は、大部分が過去に伐採されており、その後成立した二次林となっている。ただし、林相は成熟から老齢段階となっており、主にスダジイによって構成される常緑広葉樹林が形成されている。奄美大島の金作原、湯湾岳周辺、住用川上流の神屋一帯や川内川上流域、徳之島の天城岳、井之川岳、三京などに原生的な状態でまとまった自然林が存在し、希少動植物の生息・生育も確認されているなど、原生的要素を残している。

亜熱帯の森林の特徴として、湯湾岳や井之川岳、天城岳などの山頂部の雲霧帯や谷筋などには希少な着生植物が多く見られ、シダ植物のアマモシシランやシマオオタニワタリ、ラン科のナンカクラン、キバナノセッコク、カシノキラン等が確認された。

林床の希少植物としては、シダ類のホソバカナワラビ、ウマノスズクサ科のフジノカンアオイ、ラン科のアマミエビネ、トクノシマエビネ、ムヨウラン属、ムロトムヨウラン、菌従属栄養植物であるヒナノシャクジョウ科のルリシャクジョウ等が確認された。

なお、リュウキュウマツの群落は、奄美大島の北部や常緑広葉樹林の林縁部、徳之島の中央部から北部にかけてまとまった分布が見られていたとされるが、これらの森林では近年、マツノザイセンチュウによる大規模な松枯れが発生しており、特に大径木の枯損が激しいことから、マツの現存量が減少し、枯損後のギャップでは亜熱帯常緑広葉樹に置き換わりつつある。一方でリュウキュウマツは全滅しておらず、道路のり面や林縁、裸地などの開けた環境下で幼齢木の発生や若齢林への更新が確認されている。

なお、主要な植生は、ギョクシンカースダジイ群集（奄美大島、徳之島の海拔高およそ100m以下の低山地、平地等に発達）、ケハダリミノキースダジイ群集（奄美大島のスダジイ群落の大部分を占め、海拔100～450mの範囲に分布）、アマミテンナンショウスダジイ群集（奄美大島、徳之島の海拔450m以上で湿度の高い谷間や凹地に発達）、オキナワウラジロガシ群集（徳之島の天城岳丹発山、犬田布岳等に発達、奄美大島では一部に発達）などがある。

奄美群島には、国の特別天然記念物に指定されているアマミノクロウサギやルリカケスなど中琉球の固有種が見られる。

鳥類でルリカケス、アマミヤマシギ、オオトラツグミの3種は、生息域が奄美群島に集中するしており、他にアカヒゲ、オーストンオオアカゲラ、カラスバトなど、国の天然記念物に指定されている鳥類の生息も確認されている。

令和3年7月に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産」に登録された。観光利用者の増加や集中化に伴い、金作原などの一部地域では、オーバーユースによる森林生態系の劣化が懸念されている。特に夜間の林道利用の増加により、希少野生生物の交通事故や生息地の質の低下に繋がることが懸念されている。

調査結果概要

※概況把握：保護対象種を含む植生全体の生育状況（衰退・消失状況、高木種の更新状況）、生育植生の種組成（シカ忌避・嗜好種、希少種等の生育状況）の把握。

結果総括②

<p>現状評価案</p>	<p>【植物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部で風倒木が確認されたが、大径木のスダジイやタブノキ、オキナワウラジロガシ、イジュなどが生育し、林床植生は豊かに繁茂しており、健全な森林が保たれていると評価される。 前回調査の平成27年度と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められないことから、現状は維持されていると考えられる。 一方で、カシノナガキクイムシ被害が一部確認されたことから、今後の被害拡大に注意が必要である。 特に高木層における枯損の要因は、現時点では老齢によるものと推察された。 奄美におけるマツ材線虫病は、1990年代に確認されて以降、島内全域に及んだ被害はピークを過ぎ、現在は沈静化、収束した状況となっている。プロット内では健全なリュウキュウマツは確認されず、被害の影響が見られた。 ただし、道路のり面や林縁などの開けた環境下で後継個体や若齢木が確認されており、天然更新はなされている。 <p>【動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 過年度と比較し、哺乳類の種構成に大きな変化はなく、アマミノクロウサギの生息に適した環境が保たれていると考えられる。 しかし、奄美大島ではノヤギの撮影頻度が多いことから個体数増加が懸念される。また、ノネコも撮影されていることから、森林生態系への影響が懸念される。 マングース防除事業により捕獲罠が設置されているが捕獲個体は確認されなかった。なお、本種は平成30（2018）年度の1頭を最後に捕獲されており、アマミノクロウサギやアマミトゲネズミ、カエル類など外来種の回復が確認されるようになってきているとされる。 鳥類の希少種であるアマミヤマシギ、アカヒゲ、オーストンオオアカゲラ、カラスバト、ルリカケス、オオトラツグミ、リュウキュウキビタキ、サンバが確認されたことから、これら希少種の生息に適した発達した常緑広葉樹林が広面積で残存しており、これらの好適環境が保たれていると推察される。 過年度と比較し、鳥類は森林や河川流域に生息する種が確認されたことから、種構成に概ね変化はないと判断される。 <ul style="list-style-type: none"> 世界自然遺産登録に伴う観光利用者の増加や集中化が想定され、森林生態系の劣化や希少植物の盗掘や昆虫類の密猟、交通量増加に伴うアマミノクロウサギやカエル類など、一部の野生生物の生息・生育状況の悪化や希少動物の交通事故が懸念される。 ノネコはアマミノクロウサギと同所的に生息していることが確認されたことから、今後の個体数増加には注意が必要である。ノヤギによる植生被害は保護林外の沿岸部の一部地域で斜面崩壊が確認されている。今回は保護林内の奄美大島中央部の山間地で確認されており、個体数増加による下層植生の衰退にも注視する必要がある。
<p>対策状況</p>	<p>—</p>
<p>保護・管理案</p>	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度と比較し、植被率や種構成等に大きな変化は認められないことから現状は維持されていると考えられ、引き続きモニタリングを継続することが適当である。 カシノナガキクイムシの被害が生じていることから、引き続き発生状況を注視していくこととし、今後、カシノナガキクイムシの被害により樹勢が衰え危険木の発生が予見される場合には、伐倒駆除など必要な対策を行う。 森林生態系保護地域内には一部にスギ人工林があるが、その取扱については（奄美群島森林生態系保護地域保全管理方針書より）、基本的には地帯区分毎の取扱方針を踏まえて総合的に勘案することとなっている。現地確認したところ、現状では周辺常緑樹林と一体的に成林しており、病虫害発生や目立った倒伏等もないなど特段の問題は無いと思われた。このため、あえて伐採して攪乱を招くよりも、当面、現状のまま自然の推移に任せることが、妥当と判断された。なお、これらの取扱については、必要に応じて有識者の助言を得ながら対策を検討するものとする。 外来種については、関係機関と連携し相互の情報共有を図ることとする。また、定期的にモニタリングを継続実施し、その結果について評価・検証、必要に応じて対策を実施する順応的管理を行う。 また、盗掘・密猟等対策が重要となっていることから、関係機関、土地所有者、住民等と連携し、監視活動の強化やモニタリング、条例等に基づく適切な対策に取り組む。
<p>モニタリング間隔案 ※選定理由は新マニュアルp10参照</p>	<p>5年 ※世界遺産登録地域のため</p>

プロット別の結果（奄美大島）



プロット202そ

特徴：標高372mの山腹平衡斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、モッコク、スダジイ、クロバイ等の枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、サクラツツジ、ヤマヒハツやスダジイなどの小径木が林立し、林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、ヨゴレイタチシダやシラタマカズラが優占する他、イジュやウラジロカンコノキなどが生育し、種多様性が見られた



プロット203れ

特徴：標高349mの山腹平衡斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、ホルトノキ、スダジイ、樹種不明の枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、優占種のシシアクチやモクタチバナなどの小径木が林立し、林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、キノボリシダやシシアクチが優占する他、ヘツカシダやシマミサオノキなどが生育し、種多様性が見られた

プロット別の結果（奄美大島）



プロット212ぬ

特徴：標高282mの山腹平衡斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、スダジイと樹種不明の枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、優占種のアデク、スダジイ、タイミンタチバナなどの小径木が林立し、林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、コシダやヨゴレイタチシダが優占する他、ヒリュウシダやギーマ、イジュなどが生育し、種多様性が見られた



プロット213い②

特徴：標高335mの山腹凸斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、コバンモチ、クロバイ、イジュ、スダジイの枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、タイミンタチバナ、イヌマキ、イスノキが優占し、これらの小径木が林立しており林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層は、タイミンタチバナとアデクが優占する他、スダジイやムッチャガラなどが生育していたが、林床が暗いためか植被率は低かった

プロット別の結果（奄美大島）



プロット213い①

特徴：標高408mの山腹平行斜面に位置するイスノキ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、枯損及び倒伏は確認されなかった
- ・低木層植被率は高く、ミヤマハシカンボクが優占し、主に本種が繁茂しており林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、アマミシダが優占する他、ヘツカシダやウラジロガシなどが生育していたが、林床が暗いためか種数は少なかった



プロット217お

特徴：標高261mの山腹凹斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、スダジイのみ6本もの枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、クロヘゴが優占し、その他にイスノキやシシアクチなどが林立し、林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層は、シシアクチとクロヘゴが優占するが、林床が暗いためか植被率は低かった

プロット別の結果（奄美大島）



プロット217た

特徴：標高93mの山腹平行斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、スダジイとヒメユズリハの枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、クロヘゴとスダジイが優占し、タイミンタチバナやシシアクチなど小径木が林立しており林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、部分的にコシダが繁茂する他、シシアクチやヒリュウシダなどが生育しており、種多様性が見られた



プロット220な

特徴：標高84mの平坦尾根に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、樹種不明の他、主にスダジイの枯損が確認された
- ・低木層はイジユ、イスノキ、タイミンタチバナが優占し、これら小径木が林立しており林内の見通しは悪い
- ・草本層はシマミサオノキとイスノキが優占するが、尾根上で乾燥しているためか植被率は低かった

プロット別の結果（徳之島）



プロット232ほ

特徴：標高208mの山腹平衡斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、スダジイを中心に8本、大径木のリュウキュウマツが6本その他、樹種不明の枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、シマミサオノキとボチョウジが優占し、この他タイミンタチバナやスダジイなど小径木が林立しており林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、ヨゴレイタチシダとツルランが優占し、コウモリシダやコバノカナワラビなども生育し、種多様性が見られた



プロット234へ

特徴：標高321mの山腹平衡斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、スダジイを中心に8本、樹種不明の枯損が3本確認され、風倒木も複数確認された
- ・スダジイにカシノナガキクイムシ被害が確認された
- ・低木層植被率は高く、クチナシやサザンカが優占し、この他タブノキやスダジイなど小径木が林立しており林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、コウモリシダとヨゴレイタチシダが優占し、キノボリシダなども生育し、種多様性が見られた①- 26

プロット別の結果（徳之島）



プロット235ろ

特徴：標高138mの山腹平衡斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、スダジイの枯損が5本確認され、カシノナガキクイムシ被害が生じていた
- ・低木層植被率は高く、オオシイバモチ、ボチヨウジの他アデクやシシアクチが優占し、林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層は、スダジイとシマミサオノキが優占するが、急傾斜地のためか植被率は低かった



プロット243い②

特徴：標高260mの山腹凹斜面に位置するスダジイ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、スダジイの枯損5本の外、ヒメアリドオシの枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、シマミサオノキとタイミンタチバナやイスノキが優占し、この他ギョクシンカやイヌガシなど小径木が林立しており林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、ヒメアリドオシが優占する他、カツモウイノデ、サクラランやスダジイなども生育し、種多様性が見られた

プロット別の結果（徳之島）



プロット243い①

特徴：標高234mの山腹平衡斜面に位置するオキナワウラジロガシ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、スタジイの枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、イスノキとシマミサオノキの他シシアクチが優占し、林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層は、ヒメアリドオシやサクラランが優占する他、シシアクチやイヌガシなどが生育し、種多様性が見られた



プロット246は

特徴：標高239mの山腹凹斜面に位置するオキナワウラジロガシ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、オキナワウラジロガシの枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、シシアクチとボチョウジが優占し、林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、コバノカナワラビとキノボリシダが優占する他、希少種のトクノシマエビネも確認され、種多様性が見られた

プロット別の結果（徳之島）



プロット248い

特徴：標高203mの山腹平衡斜面に位置するアマミアラ
カシ-イスノキ群落

シカ被害程度：※シカの生息なし

0 (平成22年度)→0 (平成27年度)→0 (令和3年度)

- ・高木層では、ヤンバルアワブキの枯損が確認された
- ・低木層植被率は高く、モクタチバナが優占する他、ボ
チョウジやセンリョウなどの小径木が林立しており、
林内の見通しは非常に悪い
- ・草本層の植被率も高く、カツモウイノデやヒメアリド
オシ、コバノカナワラビが優占する他、希少種のトク
ノシマエビネも確認され、種多様性が見られた

野生動物の生息状況調査結果(自動撮影カメラ)哺乳類

＜奄美大島＞

設置数全3台
※うち1台撮影なし
約5ヶ月間設置

哺乳類
4目5科5種

延べ確認個体数の多い
上位3種
リュウキュウイノシシ:

延べ37個体
アマミノクロウサギ:
延べ33個体
ノヤギ:延べ30個体

この他ネズミ科が延べ
2個体、ノネコが延べ
1個体確認された。

No.17 リュウキュウイノシシ



No.17 リュウキュウイノシシ



No.17 アマミノクロウサギ



No.17 ネズミ科



野生動物の生息状況調査結果(自動撮影カメラ)哺乳類

No.27 リュウキュウイノシシ



No.27 アマミノクロウサギ
2 個体



<奄美大島>

設置数全 3 台
※うち 1 台撮影なし
約 5 ヶ月間設置

哺乳類
4 目 5 科 5 種

延べ確認個体数の多い
上位 3 種
リュウキュウイノシシ:

延べ 37 個体

アマミノクロウサギ:
延べ 33 個体

ノヤギ: 延べ 30 個体

No.27 ノヤギ



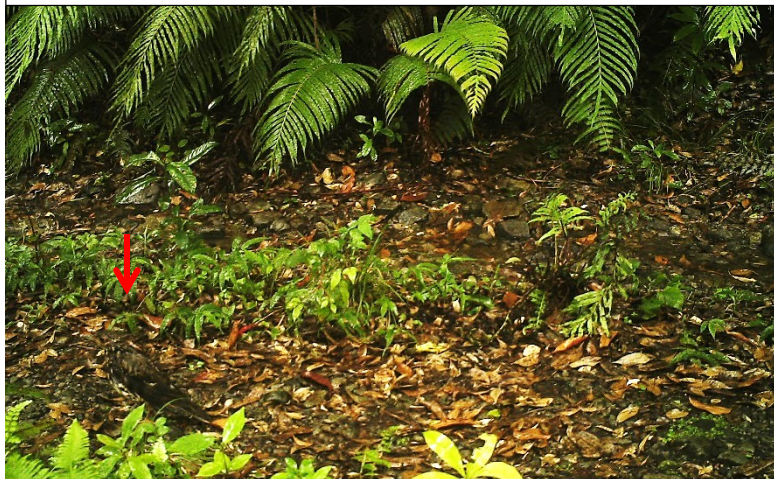
No.27 ノネコ



この他ネズミ科が延べ
2 個体、ノネコが延べ
1 個体確認された。

野生動物の生息状況調査結果(自動撮影カメラ)鳥類

No.17 オーストンオオアカゲラ



Ltl Acorn ▶ 077°F 025°C 07/17/2021 18:01:05

No.17 オオトラツグミ



Ltl Acorn ○ 078°F 026°C 08/04/2021 08:00:44

No.17 アマミヤマシギ



Ltl Acorn ◀ 086°F 030°C 08/25/2021 14:22:04

No.17 カラスバト



Ltl Acorn ● 084°F 029°C 08/22/2021 12:23:49

＜奄美大島＞

設置数全3台
※うち1台撮影なし
約5ヶ月間設置

鳥類 4目5科8種

延べ確認個体数の多い
上位3種

オオトラツグミ：
延べ32個体

リュウキュウキジバ
ト：延べ15個体

ルリカケス：
延べ13個体

この他希少種のアマミ
ヤマシギが延べ10個体、
カラスバトが延べ2個
体、アカヒゲとオース
トンオオアカゲラが延
べ1個体確認された。

野生動物の生息状況調査結果(自動撮影カメラ)鳥類

No.17 アカヒゲ



No.17 ルリカケス



No.17 ハシブトガラス



No.27 カラスバト



＜奄美大島＞

設置数全3台
※うち1台撮影なし
約5ヶ月間設置

鳥類 4目5科8種

延べ確認個体数の多い
上位3種

オオトラツグミ：
延べ32個体

リュウキュウキジバ
ト：延べ15個体

ルリカケス：
延べ13個体

この他希少種のアマミ
ヤマシギが延べ10個体、
カラスバトが延べ2個
体、アカヒゲとオース
トンオオアカゲラが延
べ1個体確認された。

野生動物の生息状況調査結果(自動撮影カメラ)哺乳類

No.21 リュウキュウイノシシ



Ltl Acorn ● 064°F 018°C 11/19/2021 04:18:45

No.21 リュウキュウイノシシ



Ltl Acorn ☾ 071°F 022°C 11/22/2021 09:37:02

No.21 アマミノクロウサギ



Ltl Acorn) 062°F 017°C 12/06/2021 19:07:00

No.21 ノイヌ



Ltl Acorn ☾ 078°F 026°C 07/28/2021 07:34:23

<徳之島>

設置数全3台
※うち1台撮影なし
約5ヶ月間設置

哺乳類
3目3科3種

延べ確認個体数の多い
順に

リュウキュウイノシシ：延べ42個体
アマミノクロウサギ：延べ37個体
ノイヌ：延べ1個体

野生動物の生息状況調査結果(自動撮影カメラ)哺乳類

No.23 リュウキュウイノシシ



Ltl Acorn 082°F 028°C 07/16/2021 10:39:16

No.23 リュウキュウイノシシ



Ltl Acorn 077°F 025°C 07/20/2021 08:35:14

No.23 アマミノクロウサギ



Ltl Acorn 077°F 025°C 07/18/2021 03:08:47

No.23 アマミノクロウサギ



Ltl Acorn 084°F 029°C 08/05/2021 22:36:59

<徳之島>

設置数全3台
※うち1台撮影なし
約5ヶ月間設置

哺乳類
3目3科3種

延べ確認個体数の多い
順に

リュウキュウイノシシ：延べ42個体
アマミノクロウサギ：延べ37個体
ノイヌ：延べ1個体

野生動物の生息状況調査結果(自動撮影カメラ)鳥類

No.21 アマミヤマシギ



Ltl Acorn ● 066°F 019°C 10/20/2021 20:57:37

No.21 ハシブトガラス



Ltl Acorn ○ 078°F 026°C 09/10/2021 07:21:22

No.21 リュウキュウキジバト



Ltl Acorn ● 077°F 025°C 09/22/2021 06:25:50

No.23 リュウキュウキジバト



Ltl Acorn ○ 082°F 028°C 07/09/2021 11:20:48

<徳之島>

設置数全3台
※うち1台撮影なし
約5ヶ月間設置

鳥類
3目3科3種

延べ確認個体数の多い
順に

アマミヤマシギ：
延べ7個体
リュウキュウキジバ
ト：延べ6個体
ハシブトガラス：
延べ1個体

野生動物の生息状況調査結果(スポットセンサス調査)鳥類



ルリカケス

<奄美大島>

繁殖期

5目10科17種

越冬期

※とりまとめ中

【希少種（国内及び鹿児島県における）】

※種名は複数の亜種が生息しているため、亜種名で記載

留鳥：カラスバト、アマミヤマシギ、オーストン
オオアカゲラ、ルリカケス、オオトラツグ
ミ、アカヒゲ、リュウキュウキビタキ

夏鳥：

冬鳥：※解析中

【普通種】※種名は複数の亜種が生息しているため、亜種名で記載

留鳥：リュウキュウキジバト、ズアカアオバト、アマミコゲラ、リュウキュウサンショウクイ、ハシブト
ガラス、アマミヤマガラ、アマミシジュウカラ、アマミヒヨドリ、リュウキュウメジロ

夏鳥：リュウキュウアカショウビン

冬鳥：※解析中

【特定外来生物】

確認なし

野生動物の生息状況調査結果(スポットセンサス調査)鳥類



サシバの幼鳥（越冬期）

<徳之島>

繁殖期

4目10科13種

越冬期

※とりまとめ中

●この他、自動撮影カメラ調査のみでアマミヤマシギが確認された。

【希少種（国内及び鹿児島県における）】

※種名は複数の亜種が生息しているため、亜種名で記載

留鳥：アマミヤマシギ、アカヒゲ、リュウキュウ
キビタキ

旅鳥・冬鳥：サシバ

【普通種】※種名は複数の亜種が生息しているため、亜種名で記載

留鳥：リュウキュウキジバト、ズアカアオバト、アマミコゲラ、リュウキュウサンショウクイ、ハシブトガラス、アマミヤマガラ、アマミシジュウカラ、アマミヒヨドリ、リュウキュウメジロ

夏鳥：リュウキュウアカショウビン、リュウキュウサンコウチョウ

冬鳥：※解析中

【特定外来生物】

確認なし

野生動物の生息状況調査結果(その他) 音声録音

哺乳類

【希少種】 ※解析中

アマミノクロウサギ

鳥類 ※種名は複数の亜種が生息しているため、亜種名で記載

●目●科●種

【希少種】 ※解析中

留鳥：アカヒゲ、ルリカケス、オオトラツグミ、リュウキュウコノハズク、リュウキュウア
オバズク

夏鳥：リュウキュウアカショウビン

【普通種】 ※解析中

留鳥：リュウキュウメジロ、ズアカアオバト、アマミヒヨドリ、ハシブトガラス

夏鳥：

両生類

●目●科●種

【希少種】 ※解析中

オットンガエル、ハロウィンアマガエル

野生動物の生息状況調査結果(その他)

昆虫類

奄美大島：12目61科95種

徳之島：10目48科63種

【希少種】

ヒメマルゴキブリ、アマミコケヒシバツタ

その他

- ・爬虫類のヘリグロヒメトカゲが奄美大島八津野林道にて1個体確認された。
- ・バーバートカゲ(VU)とオキナワキノボリトカゲ(NT)が徳之島にて確認された。
- ・周囲が開けた道路上や橋の上などでは、アマミノクロウサギの糞が大量に確認された。林内では巣穴も確認された。



オキナワキノボリトカゲ (232ほ)



アマミノクロウサギの巣穴 (212ぬ)



アマミノクロウサギの糞 (220な)



ヘリグロヒメトカゲ (八津野林道)